

「第6回 シンポジウム 関西のインフラ強化を進めるために ー世界のリーディングエリアとするためにー」

開催報告

(一社)近畿建設協会

関西を日本のリーディングエリアとしていくために、必要なインフラ整備や仕組み等について、産官学の多くの有識者で方向性を議論し、実現に向けた構想などをとりまとめて広く広報していくため、平成29年4月に「関西のインフラ強化を進める会」を発足させました。この度、第6回シンポジウムを10月24日に建設技術展会場において開催しましたので、その報告をします。

- ①実施日時 : 2019年10月24日 (木) 13:00～15:00
- ②会場 : マイドームおおさか 建設技術展会場
- ③出席者 : 300名以上



橋爪氏



小林氏



井上氏



高宮氏



野島氏



山田氏

第9回委員会

日時 : 2019年12月4日 (水) 17:00～

会場 : OMMグラン101・102 (懇親会会場 : 大阪キャッスルホテル7階)

プログラム

13:00～	開会挨拶 黒谷努 (近畿建設協会 理事)
13:00～ 13:40	基調講演 橋爪紳也 氏 (大阪府立大学 特別教授) 「いのち輝く未来社会のデザイン 1970年大阪万博から2025年大阪・関西万博に向けて」
13:40～ 15:00	パネルディスカッション 「大阪・関西万博を契機に関西の魅力的な街づくりと 今後のインフラ整備等について」 コーディネーター 小林潔司 氏 (京都大学経営管理大学院 特任教授) パネリスト 井上智夫 氏 (国土交通省 近畿地方整備局長) 高宮紀子 氏 (関西電力(株)地域エネルギー本部 夢洲事業推進プロジェクトチーム部長) 野島学 氏 (関西経済連合会 理事) 山田忠史 氏 (京都大学経営管理大学院 教授)

「いのち輝く未来社会のデザイン 1970年大阪万博から2025年大阪・関西万博に向けて」と題して、大阪府立大学 特別教授 橋爪紳也氏による基調講演が行われた。橋爪氏からは、2025年大阪・関西万博の計画についてのお話を中心に、今後の関西の発展のために、魅力ある街づくりを進めていくうえでの施策や考え等についてご講演いただいた。

その後のパネルディスカッションでは、「大阪・関西万博を契機に関西の魅力的な街づくりと今後のインフラ整備等について」をテーマに、4人のパネリストから関西の街づくりにおける課題や社会の進歩を踏まえた将来の関西のインフラ整備や仕組みについての提案等が行われた。

万博後の街づくり考える

関西のインフラ強化を進める会シンポ

夢洲でスーパーシティー実証へ



国や自治体、経済界、学識者ら関西の産学官で構成する「関西のインフラ強化を進める会」（委員長・小林潔司京都大学経営管理大学院特任教授）は24日、大阪府中央区で開かれた「建設技術展2019 近畿」の会場で第6回シンポジウム「大阪・関西万博を契機に、関西の魅力的な街づくりと今後のインフラ整備について」を開いた。写真。多くの聴講者が来場し、これからの大阪・関西の街づくりを考えた。

シンポジウムでは冒頭、近畿建設協会の黒谷努理事が「関西では、2025年大阪・関西万博やリニア中央新幹線・北陸新幹線の大坂延伸などを踏まえ、新大阪をはじめとする各拠点については議論すべき課題がたくさんある。関西をさらに魅力的に住みやすい街にしていくなかにどのようなインフラが必要かをいろいろな角度から示唆し、議論してもらえらることを期待している」とあいさつした。

基調講演では、橋爪紳也大阪府立大学特別教授が「いのち輝く未来社会のデザイン」1970年大阪万博から2025年大阪・関西万博に向けて」と題して講演。橋爪氏は「世界から人が集まり、ビジネス・学びの機会や投資がある。そこから世界に羽ばたいていくのがこれからの街の姿だ」と述べ、「移動を支援する都市基盤こそ今後必要な社会インフラの一つだ」と語った。

その上で、1970年万博について「高度情報化社会の先鞭を付け、新しい技術・エネルギーシステムの実験がなされた」とした。大阪・関西万博については「インフラプラス人がレガシーになる。国際的な都市として再び世界に存在感を示し、若い担い手が続々と生まれる若々しい街にならなければならない。世界中から優秀な人材が集まってくる街に変わることができれば成功だ」と話した。

パネルディスカッションでは、小林委員長のコーディネートで、井上智夫近畿地方整備局長、高宮紀子関西電力地域エネルギー本部西電力地域エネルギー本部夢洲事業推進プロジェクトチーム部長、野島学関西経済連合会理事、山田忠史京都大学経営管理大学院教授が「大阪・関西万博を契機に、関西の魅力的な街づくりと今後インフラ整備について」をテーマに万博への期待や万博後の街づくりについて意見交換。

井上局長は、万博会期中の大量輸送システムを課題に挙げるとともに、インフラ整備については「観光を通じて、健康や安全・安心を経験してもらう切り口で考えてはどうか」と指摘。高宮氏は「エネルギーはさまざまな課題解決の解になる。夢洲でそれを具現化する街づくりができれば」と述べ、「夢洲の街づくりが大阪の街を見直すきっかけになる」との期待を示した。

野島氏は「まずは夢洲でスーパーシティーの実証に取り組みたい」と語るとともに「国内外から人を引き寄せられる関西・夢洲の位置付けを考える必要がある」と強調。山田氏は「万博が将来の交通システム・街づくりの実験場になる。万博がポジティブカブを描ききっかけになれば」と話した。小林氏は「70年万博のように関西が一体で新しいものに取り組むことが必要だ」と呼び掛けた。